様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １５ 日現在

機関番号：３２４０８
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2018
課題番号：２６３８０８４９

研究課題名（和文）国際的スポーツイベントに関するメディア報道が外国人イメージに及ぼす影響

研究課題名（英文）The effects of media coverage on international sports events on foreigner image

研究代表者
佐久間　勲（SAKUMA, Isao）

文教大学・情報学部・教授

研究者番号：６０３４１９０５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,900,000円

研究成果の概要（和文）：国際的スポーツイベントに関するメディア報道が外国人イメージに及ぼす影響を実証的に検討した。第一に、国際的スポーツイベントの開催の前後で外国人イメージが変化するか、パネル調査により検討した。その結果、多くの外国人イメージが肯定的な方向に変化した一方で、少数の外国人イメージが否定的な方向に変化していたこと、それらの変化は大会に関するメディア報道への接触の程度が規定していることを見出した。第二に、W杯サッカー・ブラジル大会の開催期間中のテレビ番組の内容分析を実施した。そして内容分析の結果とパネル調査で得られた外国人イメージの関連を分析したが、関連性は見られなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的な意義として、第一に、国際的スポーツイベントが外国人イメージに及ぼす影響に関する研究知見を蓄積することができた。第二に、国際的スポーツイベント期間中のテレビ番組の内容分析を実施し、その内容と外国人イメージの変化を検討することを試みた。

研究成果の概要（英文）：This study aims to examine the effects of the coverage of international sports events on images of foreigners. First, we investigated whether images of foreigners changed during international sports events (2014 FIFA World Cup, Rio de Janeiro Olympic Games and 2018 FIFA World Cup) to conduct panel study. Images of some foreigners changed in a positive direction, but image of a few foreigner changed in a negative direction. Exposure to the media coverage of the international sports events had the effects on images of foreigners. Second, we conducted content analysis of TV programs during 2014 FIFA World Cup to investigate how foreigners were portrayed. The portrayal of foreigners in TV programs had no effects on images of foreigners on panel study.

研究分野：社会心理学

キーワード：国際的スポーツイベント　オリンピック大会　ワールドカップ・サッカー大会　外国人ステレオタイプ　外国人イメージ　パネル調査　内容分析　メディア効果

１．研究開始当初の背景

外国人イメージの形成・変化には、さまざまな要因が関わっている。その主な要因のひとつがメディアである。われわれはメディア報道を通して、ある国民と直接相互作用をしなくても、その国民に対するイメージを形成することができる。こうしたメディア報道のなかでも、国際的スポーツイベントに関する報道が外国人イメージに及ぼす影響はきわめて大きいと考えられる。その理由として、第一に、国際的スポーツイベントの開催期間中は短期間であるにもかかわらず、さまざまな外国人について大量の報道がなされること、第二に、国対抗のスポーツ大会という競争的な文脈におかれるために、外国人カテゴリが顕現化しやすいこと、第三に、スポーツに関する報道は、政治・経済に関するものと比較して、多くの国民が関心を持っているために、接触する頻度や時間が長いことが挙げられる。

こうした理由を踏まえた上で、先行研究では、アテネ・オリンピック大会以来、国際的スポーツイベントに関する報道が外国人イメージに及ぼす影響について繰り返し検討がなされてきた（村田他，2005：佐久間他，2007；佐久間他，2010；佐久間・日吉，2012；佐久間・日吉，2013）。これらの先行研究を通して得られた主要な結果は、第一に、国際的スポーツイベントの開催の前後で比較をすると、いくつかの外国人イメージが変化したこと、そして、その多くが肯定的な方向に変化していた。他方、少数の外国人イメージについては、否定的な方向に変化していた。第二に、大会期間中のメディア報道への接触の程度や、特定の番組（e.g.，試合中継）を視聴している程度と、一部の外国人イメージの変化との間に関連が見られた。これらの一連の結果は、メディア報道の内容に応じて外国人イメージが変化したと解釈された。

ただしオリンピック大会やＷ杯サッカーなどの国際的スポーツイベントの開催は、数年に一度のことである。先行研究で得られた知見（国際的スポーツイベントの開催により外国人イメージが変化したという結果）が一般化可能性の高いものであると主張できるほど、十分な数の研究が実施されているとは言えない。さらに先行研究では、外国人イメージの変化の主な要因としてメディア報道の影響を指摘し、それを示唆する結果も調査データから得られている。しかしメディア報道の内容分析を実施していないために、メディア報道の内容が外国人イメージの変化の原因であると主張できる直接的な証拠は得られていない。

２．研究の目的

上記で指摘した問題点を踏まえて、本研究の第一の目的は、国際的スポーツイベントを通して国民イメージが変化するか検討することである。国民イメージについては、あたたかさ次元、知的能力次元、身体能力次元の３次元から検討する。そして国際的スポーツイベントが国民イメージに及ぼす影響についての研究知見を蓄積することにより、その知見の一般化可能性を考察する。第二の目的は、国民イメージの変化を規定する要因としてメディア報道の影響を検討することである。メディア報道の影響を明らかにするために、大会期間中のメディア報道への接触の程度を調査し、その影響を検討する。加えて、大会期間中のメディア報道（テレビ番組）の内容分析も実施する。そして内容分析の結果と国民イメージの変化の関連性を検討することで、メディア報道が外国人イメージに及ぼす影響に関する、より直接的な証拠を得る。

３．研究の方法

（1）国際的スポーツイベントと外国人イメージの変化に関するパネル調査

３つの国際的スポーツイベント（2014 年のＷ杯サッカー・ブラジル大会、2016 年のリオデジャネイロ・オリンピック大会、2018 年のＷ杯サッカー・ロシア大会）を対象に、web を用いたパネル調査を実施した。調査対象者は、web 調査会社に登録しているモニターであった。３つの大会に関するパネル調査に参加した対象者は、Ｗ杯サッカー・ブラジル大会が 686 人、リオデジャネイロ・オリンピック大会が 699 人、Ｗ杯サッカー・ロシア大会が 731 人であった。それぞれの大会開催の約１ヶ月から２ヶ月前に事前調査、それぞれの大会終了後すぐ（Ｗ杯サッカー・ロシア大会では日本代表が敗退してすぐ）に事後調査を実施した。

主要な調査項目は次の通りであった、①国民イメージ：８項目の対となる言葉（７件法）を用いてターゲットとなった複数の国民イメージを測定した（測定の対象となった国民は研究成果の表１から表３を参照）。８項目のうち３項目（「あたたかい－冷たい」「親しみやすい－親しみにくい」「好き－嫌い」）があたたかさ、３項目（「頭がよい－頭が悪い」「有能な－有能でない」「知的な－知的でない」）が知的能力、２項目（「身体能力高い－身体能力が低い」「運動神経がある－運動神経がない」）が身体能力に対応するものであった。②大会期間中のメディア報道への接触：大会期間中のターゲットとなった国（民）の大会に関連する報道への接触の程度（５件法）、大会に関連しない報道への接触の程度（５件法）を尋ねた（ただしＷ杯サッカー・ロシア大会は除く）。

（2）Ｗ杯サッカー・ブラジル大会期間中のテレビ番組の内容分析

Ｗ杯サッカー・ブラジル大会期間中に地上波で放送された試合中継（イメージ測定の対象国（民）が出場する予選、決勝）20 試合、およびイメージ測定の対象国（民）に関連する地上波で放送された一般番組 73 番組について内容分析を実施した。内容分析では、イメージ測定に対応して、「あたたかさ」「知的能力」「身体能力」の３次元を中心にコーディングを実施した。コーディングは、大学生が実施した。

４．研究成果

(1) 国際的スポーツイベントと外国人イメージの変化

web を用いたパネル調査で得られたデータをもとに、国際的スポーツイベントを通して外国人イメージが変化するか検討した。具体的には、対象となった３つの大会ごとに、それぞれのターゲット国民に関して、事前調査および事後調査の３次元のイメージの得点の平均値を算出した（表１から表3)。そして事前調査と事後調査で、それらの得点の平均値に差があるか（変化したか）を検討するために、対応のある t 検定を実施した。

W 杯サッカー・ブラジル大会：あたたかさ得点については、コートジボワール人、コロンビア人、ドイツ人、日本人は、事前調査と比較して事後調査の得点が有意に高かった。一方、韓国人は、有意に低かった。知的能力得点については、ドイツ人は事前調査と比較して事後調査の得点が有意に高かった。身体能力得点については、コートジボワール人、ギリシャ人、コロンビア人、スペイン人、ドイツ人は、事前調査と比較して事後調査の得点が有意に高かった。一方で、韓国人と日本人は、事前調査と比較して事後調査の得点が有意に低かった。

表１　W 杯サッカー・ブラジル大会における大会前と大会後の
各国民の３次元のイメージ得点の平均値

	あたたかさ得点			知的能力得点			身体能力得点		
国民	事前	事後		事前	事後		事前	事後	
コートジボワール人	4.06	4.16	***	3.96	4.00		4.46	4.75	***
ギリシャ人	4.06	4.10		4.10	4.09		4.14	4.26	***
コロンビア人	4.09	4.15	**	3.95	3.99		4.39	4.70	***
ブラジル人	4.44	4.48		3.92	3.90		5.06	5.12	
韓国人	3.14	3.06	*	3.57	3.60		3.93	3.86	*
スペイン人	4.32	4.32		4.10	4.13		4.39	4.48	*
ドイツ人	4.07	4.13	*	4.67	4.78	**	4.37	4.69	***
カメルーン人	4.23	4.25		3.93	3.90		4.93	4.93	
日本人	4.62	4.72	**	4.61	4.61		3.85	3.72	***

注）N=686。範囲は 1～7。得点が高いほどあたたかい、知的能力が高い、身体能力が高いというイメージを持っていることを意味する。*** $p<.001$、 ** $p<.01$、 * $p<.05$。

リオデジャネイロ・オリンピック大会：あたたかさ得点については、ブラジル人、ジャマイカ人、日本人は事前調査と比較して事後調査の得点が有意に高かった。知的能力得点については、アメリカ人と日本人は、事前調査と比較して事後調査の得点が有意に高かった。身体能力次元については、アメリカ人、ロシア人、中国人、ジャマイカ人、ドイツ人、日本人は、事前調査と比較して事後調査の得点が有意に高かった。

表２　リオデジャネイロ・オリンピック大会における大会前と大会後の
各国民の３次元のイメージ得点の平均値

	あたたかさ得点			知的能力得点			身体能力得点		
国民	事前	事後		事前	事後		事前	事後	
ブラジル人	4.37	4.43	*	3.84	3.82		4.95	4.98	
アメリカ人	4.43	4.46		4.36	4.49	***	4.70	4.85	***
ロシア人	3.54	3.53		4.19	4.23		4.45	4.65	***
韓国人	3.25	3.21		3.70	3.65		3.93	3.88	
中国人	2.99	2.94		3.51	3.55		4.10	4.25	***
ジャマイカ人	4.30	4.40	***	3.87	3.90		5.11	5.23	*
ドイツ人	4.11	4.08		4.74	4.76		4.40	4.47	*
ケニア人	4.21	4.24		3.89	3.89		5.39	5.40	
日本人	4.61	4.71	*	4.53	4.62	*	3.78	3.97	***

注）N=699。範囲は 1～7。得点が高いほどあたたかい、知的能力が高い、身体能力が高いというイメージを持っていることを意味する。*** $p<.001$、 ** $p<.01$、 * $p<.05$。

W 杯サッカー・ロシア大会：あたたかさ得点については、コロンビア人、セネガル人、日本人は、事前調査と比較して事後調査の得点が有意に高かった。知的能力得点については、ロシ

ア人、コロンビア人、セネガル人、日本人は、事前調査と比較して事後調査の得点が有意に高かった。身体能力得点については、コロンビア人、ポーランド人、セネガル人は、事前調査と比較して事後調査の得点が有意に高かった。

表 3　W 杯サッカー・ロシア大会における大会前と大会後の
各国民の 3 次元のイメージ得点の平均値

	あたたかさ得点			知的能力得点			身体能力得点		
国民	事前	事後		事前	事後		事前	事後	
ロシア人	3.67	3.70		4.26	4.33	*	4.63	4.63	
コロンビア人	4.16	4.21	*	3.95	3.99	*	4.53	4.89	***
ポーランド人	4.14	4.16		4.21	4.24		4.18	4.40	***
韓国人	3.32	3.29		3.73	3.66		4.03	3.97	
セネガル人	4.10	4.26	***	3.98	4.03	*	4.66	5.14	***
日本人	4.60	4.69	**	4.53	4.68	***	3.77	3.75	

注）N=731。範囲は 1～7。得点が高いほどあたたかい、知的能力が高い、身体能力が高いというイメージを持っていることを意味する。*** $p<.001$、 ** $p<.01$、 * $p<.05$。

続いて、大会に関するメディア報道が外国人イメージの変化に及ぼす影響を検討した。具体的には、事後調査の 3 次元のイメージ得点を従属変数、大会期間中の大会に関連するメディア報道への接触の程度、大会に関連しないメディア報道への接触の程度を独立変数とした重回帰分析を実施した。このときに、事前調査の 3 次元のイメージ得点、性別、年齢を同時に独立変数に投入し、その効果を統制した。

W 杯サッカー・ブラジル大会：大会に関連する報道に接触するほど、コートジボワール人、ギリシャ人、カメルーン人のあたたかさ得点、ギリシャ人、スペイン人、ドイツ人の知的能力得点、コートジボワール人、コロンビア人、スペイン人、ドイツ人の身体能力得点が有意に高めていた。大会に関連しない報道への接触の程度は、ブラジル人のあたたかさ得点、コートジボワール人の知的能力得点を有意に高めていた。

リオデジャネイロ・オリンピック大会：大会に関連する報道への接触は、ブラジル人、アメリカ人、ジャマイカ人、ケニア人、ドイツ人、日本人のあたたかさ得点、アメリカ人、韓国人、日本人の知的能力得点、アメリカ人、ロシア人、中国人、韓国人、ジャマイカ人、ドイツ人、ケニア人、日本人の身体能力得点を有意に高めていた。大会に関連しない報道への接触の程度は、ドイツ人のあたたかさ得点、ブラジル人の知的能力得点を有意に高める一方で、アメリカ人の知的能力得点、ブラジル人、アメリカ人、ロシア人、ジャマイカ人、ケニア人の身体能力得点を有意に低めていた。

（2）W 杯サッカー・ブラジル大会期間中のテレビ番組の内容分析

試合中継の内容分析の結果と、web 調査で得られた外国人イメージの関連を検討した。しかしながら、内容分析の結果と、web 調査で得られた外国人イメージの間に関連は見られなかった。

（3）研究の総括

（1）（2）の結果をまとめると、第一に、国際的スポーツイベントを通して外国人イメージは変化すること、そしてその変化の多くは肯定的な方向への変化であることが明らかにされた。この結果は先行研究と同様の結果であり、国際的スポーツイベントが外国人イメージに影響するという結果の一般化可能性を高めるものであった。第二に、パネル調査の結果から、メディア報道への接触の程度が、その変化を規定していることを示唆する結果が得られた。ただし番組内容に応じて外国人イメージが変化することを示唆する結果は得られなかった。この点については、今後、内容分析の方法（特にコーディングの基準）などを検討した上で、再度検証を試みたい。

＜引用文献＞

① 村田光二・稲葉哲郎・向田久美子・佐久間勲・樋口収・高林久美子（2005）． アテネ・オリンピック報道と日本人・外国人イメージ(1)－愛国心、ナショナリズム尺度の検討－ 日本社会心理学会第 46 回大会発表論文集，64-65．

② 佐久間勲・藤島喜嗣・高林久美子（2007）． ワールドカップサッカー・ドイツ大会と日本人・外国人イメージの変化－好意度と能力の変化－ 日本グループ・ダイナミックス学会第 54 回大会発表論文集，212-213．

③ 佐久間勲・日吉昭彦 （2012）． ワールドカップサッカー・南アフリカ大会と国民イメージ(1)：国民イメージの変化　情報研究(文教大学)，47，1-11．

④ 佐久間勲・日吉昭彦 （2013）． ロンドン・オリンピック大会と国民イメージ 2013 年

社会情報学会（SSI）学会大会論文集，29-32.
⑤ 佐久間勲・八ッ橋武明・李岩梅（2010）. 北京オリンピック大会と国民イメージ(1)　情報研究(文教大学)，42，23-30.

５．主な発表論文等
〔雑誌論文〕（計１件）
① 佐久間勲・日吉昭彦（2017）. ロンドン・オリンピック大会と国民イメージの変化　社会情報学　6（1），19-32. 査読あり

〔学会発表〕（計５件）
① 佐久間勲・日吉昭彦（2015）. ワールドカップサッカー・ブラジル大会と国民イメージ　2015年社会情報学会大会　明治大学（東京都千代田区）
② 佐久間勲・日吉昭彦（2015）. ワールドカップサッカー・ブラジル大会と国民イメージ：テレビ視聴の影響　日本社会心理学会第56回大会　東京女子大学（東京都杉並区）
③ SAKUMA,Isao（2016）. The effects of media use on the changes in national images during the 2014 FIFA World Cup in Brazil The 31st International Congress of Psychology パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）
④ 佐久間勲・日吉昭彦（2017）. リオデジャネイロ・オリンピック大会と国民イメージ（1）―国民イメージの変化―　日本グループ・ダイナミックス学会第64回大会　東京大学（東京都文京区）
⑤ 佐久間勲・日吉昭彦（2017）. リオデジャネイロ・オリンピック大会と国民イメージ（2）―大会に関するメディア報道への接触の効果―　日本社会心理学会第 58 回大会　広島大学（広島県東広島市）

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）
○取得状況（計０件）

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：日吉　昭彦
ローマ字氏名：Hiyoshi, Akihiko
所属研究機関名：文教大学
部局名：情報学部
職名：准教授
研究者番号（8桁）：80383313

(2)研究協力者
なし

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。